

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	東海村総合福祉センター障がい者センター		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月26日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士・看護師・言語聴覚士等の有資格者による専門的支援を行っている。	特性理解や症状に応じた対応方法を学ぶ研修会に参加し、また言語聴覚士より支援方法の指導を受け、職員同士で情報共有し統一した支援をしている。	研修会に参加し知識や経験を深める。
2	療育支援システムHUGを使用し、写真付きで活動の様子を配信することで、保護者へわかりやすく情報伝達を行い、児童の課題についての相互理解や意思疎通が迅速に図れるよう配慮している。	支援システムを効率的に使用できるよう、保護者へアプリの説明を行い体制を整えた。	配信だけでなく個別面談を増やし、直接子育てに関する助言や不安を軽減できる話し合いの場を増やしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所・認定こども園・幼稚園等との交流や、地域とこどもが触れ合う機会が少ない。	コロナ禍以降、地域との交流を積極的に行えていなかった。	職員の人数配置等を見直し、プログラムの検討を行う。地域と関りあえる機会やふれあいの場の提供を考える。
2	保護者同士の交流の場・きょうだい同士の交流できるイベントや支援が不足している。	職員の入れ替えや、人数不足、経験不足によりイベントや交流の場の提供が満足にできなかった。	研修会や他事業所のイベント等に参加し、保護者やきょうだい児に対する支援に必要な知識を習得する。
3	家族支援プログラムが不十分。	母子通所の利用者が減ったため、直接的なペアレントトレーニングの機会が減っていた。	家族等が参加できる研修会や情報提供の場を考える。